

原爆犠牲者慰霊祭を挙行



式辞を述べる河野医学部長



被爆後の惨状を語られる米村博臣氏



献花台に花を供える参列者

原爆死没者教職員・学生897人の御霊を慰めるため、毎年実施されている原爆犠牲者慰霊祭が本年も、8月9日(水)、医学部記念講堂において、御遺族、医学部長、教職員ら約360人が出席して開催されました。

まず河野医学部長から、「平和を守り、命を守り、希望と夢を未来永劫に守る。そのために私たちの追求する医学がどのように貢献できるかを一層真剣に考え、原子爆弾犠牲者の皆様のご冥福を心よりお祈りいたします。」と式辞が述べられた後、午前11時2分、長崎市のサイレンと時を同じくして参列者全員で黙祷を捧げました。

次いで、長崎医科大学出身で、原爆投下後に広島と長崎で二重被爆された米村博臣氏から、被爆直後の惨状を追想するお話をいただいた後、齋藤学長ほか大学関係者、御遺族ら参列者全員による献花が行われました。

慰霊祭終了後には、医学部福利厚生棟において、学徒遺族会、教職員遺族会及び看護師遺族会合同の追悼懇談会が行われました。

また、今回の慰霊祭の様子は、旧ソ連の核実験場があったカザフスタン共和国のセミパラチンスク診断センターと慰霊祭会場をインターネットで接続し、セミパラチンスク医科大学出身のメイルマノフ・セリック助手による同時通訳でライブ中継され、同医科大学の学生を中心に診断センター職員ら約50人も参加しました。

(医歯薬学総合研究科学術協力課)